

ずいそう

西洋医学の恩恵を受けて

後明 廣志



定年を迎えたら「サンデー毎日」で好きなことができていいなと、退職していく先輩達を見送りながら羨んでいたものですが、ついに自分にその時がやってきました。2008年10月のこと。このあと会社を続けるか、はたまた浪々の生活を送るかの選択はあとにして、まずは60年間酷使してきた体の「オーバーホール」をするのが先決と考え、診療所の最後の成人病検診で肺癌のオプション検査である「ヘリカルCT」を追加しました。先に早期胃癌にかかったことや、癌の家系で、代々癌で亡くなっていること、まして肺癌は不治の病と聞いていたからです。当時はまだタバコを吸い続けていたのも不安材料でした。だからオプション検査料1万円はこれらを思えば安いものでした。併せて「PSA」検査も申し込みました。やがて検査から一週間ほどして結果が社内便で郵送されてきました。開くのが正直怖かったです。「PSA」は大腸癌、膵臓癌、膀胱癌、前立腺癌などの早期発見に有効だと言われています。癌の所見は特にありませんでしたが、「ヘリカルCT」の結果は問題でした。肺癌はないが肺気腫の疑いがあると書かれていました。一般の検診内容の肺の結果は判定「A」で良好であるのに…なぜ？。さらに、「弓部に大動脈の拡張が見られる」との所見がありました。心臓から出て弓状に下部へ下りる部分に拡張がある、つまり瘤があるということです。何ということか、「腹部大動脈瘤」を3年前に退治して、もはや動脈瘤とは縁がないと思っていたのに、ショックは大きかったです。早速紹介状をもらい、大学病院で精密検査を行った結果、やはり弓部の内側に瘤があり、長径が45mmほどになっているとのことでした。これが成長して60mmを超えると手術の対象になるようです。もうさほど猶予はありません。またこの部位は腹部と違い、頸動脈が脳へ3本伸びていて高度の技術が必要で、手術中は心臓を止め、人口心肺を作動させて行うようです。したがって死亡率も15%と手術の中でも最も難易度が高いと言われました。腹部のときは単に血管上部からの血流を止めての手術で死亡率2%でしたが、今回は15%と聞いて大ごとだと直感しました。今までテレビで「匠の手」を持つ医師の紹介番組を見てはメモしていたノートを開き、「セカンドオピニオン」を受けるべきか悩みました。自分の命をどこの誰に託すのかという決断です。親族などに相談はするものの、最終的には自分で決めざるを得ません。色々迷った末、今までの経緯から前回の大学病院に委ねることにしました。腹部の時とは異なる若い理知的

な某医師があてがわれました。それから2年ほど、半年ごとに検査を続け、2010年10月、そろそろいいだろうということになり検査入院しました。手術中の合併症などに対応するための関連臓器・血管などの確認でした。2週間の検査の結果、11月22日入院が決まりました。当日は、医師から手術に関する説明を受け、各種承諾書にサイン、特に起こり得る合併症には10種類以上もの病名が羅列されているのには驚きでした。もはやどんな病名で死んでも遺族は受け入れねばなりません。2～3の事前検査をクリアして25日(木)手術することが内定。心臓を停止させ体温を10℃ほどに下げた手術なので、そのまま戻らなければ永眠ですね。身辺整理は一応やってきたつもりですが、いざとなると遣り残しはないかと気になるもので、熟睡できずに手術の朝を迎えました。当然食事も摂らず、丸裸で手術用のガウン一枚で手術台にスタンバイ。9時、ライトの下で現実の世界が薄らいでいくのがいま蘇ります。麻酔で痛みはないが永眠だけは勘弁してくれと祈りつつ、あとは運を天に任せるばかりでした。あとから聞いたことですが、夜7時頃手術は滞りなく終了したそうです。でもそれから私は延々12月1日まで麻酔漬けで一週間も寝ていたようなのです。その間多くの怖い夢を見ていたせいか、麻酔から徐々に目覚めては、「俺はこの病院で殺される、助けてくれ」と叫んで体に装着されている機器類や点滴の針、麻酔の管などを引っ張り投げてシーツは一時血だらけになったそうです。またICUでは提供される薬を毒物と思い込み、飲まずに脱出しようなどと画策していたことなどが現実のごとく蘇ってきて、夢と現実の見境がつかない日々がしばらく続きました。斯くして手術は無事終了しましたが、この際ほかにはもうないのか全身を隈なく検査してもらった結果、あと3つも発見されました。大動脈瘤はほとんどの場合、何の症状もなく突然破裂して命を落とす怖い病気です。どう防いだらいいのか。自分の経験から言えることは、意図して検査をすれば発見できるものなので、肝臓の超音波検査や上述のCT検査では、担当医に「血管も見てください」と意識させることが大事だそうです。私の経験した2件ともいわば「別件逮捕」という幸運な事態でした。昨年末2つを処置済みで、今後は残り1つと付き合いながら趣味の絵画や日曜大工で90歳の大台を目指したいと欲張っています。